

タイトル	北駕文庫蔵書目録稿：「宗教書之部」の古写本・古刊本(一)
著者	徳永，良次
引用	北海学園大学人文論集，4：A15-A32
発行日	1995-03-31

北駕文庫藏書目録稿

——「宗教書之部」の古写本・古刊本（一）——

一

本稿は、本学付属図書館北駕文庫に収蔵されている蔵書の内、宗教書之部として分類されている分についての紹介をするものである。北駕文庫の蔵書については、大正三年に刊行された「行啓北駕文庫藏書客目録（第一卷）」（以下、大正目録と略称する）が現在唯一の頼りであるが、それを見ると、「第三、宗教書之部」として登録されている書籍だけでも約四百種類、延べにすると優に七百点を超える膨大なものである。これらのすべてをいちいち紹介しても目録がある以上あまり意味がないし、現在多く流布している活字本等も含まれていることもあり、また、すべてを紹介することは筆者の能力を超えているので、網羅的な紹介は行わない。ただし、大正目録には登録されていない

徳 永 良 次

い資料や、当時年次不明とされていた資料の中でも年代のはっきりするものや、逆に年代の誤記などもいくつか発見されたので、将来、より詳細な目録作成の参考になると考え紹介するにととした。

そこで第一に、上述の「宗教書之部」の内、江戸時代以前の書写・刊行の写本・版本について棒目録形式で簡単に紹介する。大正目録では省略されている、書写奥書・刊記や表紙に記載されている印記、さらに貼紙等についても収書の状況を語るものとして重要であると考えられるので、できる限り記載するようにする。今回は紙幅の関係もあり、北駕文庫に登録されている「宗教書之部」の内、登録番号（蔵書に貼付されているラベル）1～240までで、該当する資料についての目録とする。目録の記載方法については後述する。

第二に、これらの資料の内で国語学、国文学、仏教学等の観点から極めて重要であると考えられるものについては、別に写真を付して、法量等を含めてやや詳しく紹介したいと思う。

二

本稿において取り上げる資料の記載方法(凡例)は以下の通りとする。

一、掲載する資料は、北駕文庫の「宗教書之部」に属し、かつ江戸時代以前の書写・刊行で年代の明記されたものに限る。年号が明記されていなくても、推定できうる資料についてはなるべく掲載することとした。なお、日本以外で書写・刊行された資料についても右に従う。

一、配列方法は、大正目録および資料に貼付されているラベルの番号に従うこととする。同目録とラベルとは大体において一致している。

一、この目録には、原則として大正目録に登録されている書名で一括するが、同一書名であっても、版や旧蔵者が異なっていることが明らかな場合は子番号を付して掲載した。

一、記載方法は、まずラベルの番号を頭書きし、書名、冊数、体

裁、奥書・刊記を記し、さらに表紙の貼紙、書き入れ等について必要に応じて記す。

書名の優先順位は、外題・内題・尾題・推定の順とし、推定の場合は()で包んで示す。

冊数は、冊子本の場合は「冊」、折本・粘葉装などは「帖」、卷子本は「巻」、断簡など一紙しか残されていない場合は「紙」とする。

体裁は、袋綴の冊子本の場合は綴じ方によって「明朝装・朝鮮装・大和綴」に区分した。

奥書・刊記については、最低限、書写・刊行年代と書写者・刊行者がわかる程度にとどめ、必要に応じて詳細に記述する。

表紙の貼紙は、北駕文庫以外のものについてのみ記載することを基本とする。書き入れについては、表紙に残されているものは「」で包んで示し、本文中に書き入れられたものは、朱書の場合は「朱書書入レ」、墨書の場合は「墨書書入レ」などとする。

北駕文庫「宗教書之部」有年紀本目録(一)

自「宗(3)/1」 至「宗(3)/240」

- 6 和解元亨釈書 十冊
○冊子本袋綴明朝装、「元禄三庚午五月吉辰／津屋勘兵衛」刊記
- 13 天台四教儀集註 三冊
○冊子本袋綴明朝装、「元和三年丁巳曆孟夏吉旦／板行 市右衛門有之」刊記、朱書書入レ、墨書書入レ、白粉書入レ、貼紙アリ
- 28 政印図 二冊
○冊子本袋綴明朝装、「延宝七祀歲仲冬吉辰」刊記
- 31 新法華經科註 十冊
○冊子本袋綴明朝装、「宝永三^{丙戌}正月吉辰／村上平樂寺重刊」刊記、墨点（仮名）、墨書書入レ
- 38 十六^{羅漢}福田宣耕記^{附図説} 一冊
（表紙）「要品」（朱）
○冊子本袋綴明朝装、「享保丁酉（1717）年／茨城多左衛門板行」刊記
- 39 がひなら三才因縁弁疑 三冊
○冊子本袋綴明朝装、「享保十一天仲秋／本屋伊兵衛板」刊記
- 40 巡礼歌要解 一冊
- 56 日本靈異記 三冊
○冊子本袋綴明朝装、「安永八年己亥三月重訂／渋川清右衛門／森本太助／梓」刊記
- 58 南都大仏殿御縁記 一冊
○冊子本袋綴明朝装、「天明三癸卯冬／龍松院崇憲誓」刊記
- 64-2 大般若經斷簡 一紙
○「延宝丁巳（1677）夏五月上浣日黄檗山宝蔵院識」刊記、「北駕／文庫」朱印記
※大般若波羅蜜多經第四百四十九卷ノ末尾ナルベシ
- 74 選択集私記 五冊
○冊子本袋綴明朝装、「宝永六年歲次甲申初夏日／嗣西山正宗沙門某甲等謹識」刊記
（表紙貼紙）「縁山／如意窟蔵／南塔」、「盈」墨書

- 75 法華經入疏 十一冊
○「元禄十丁丑歲仲冬吉日／浅野久兵衛重惟」刊記、朱点(仮名、返点)、朱書書入レ、墨書書入レ
(表紙貼紙)「縁山／如意窟藏／南塔」、「調」墨書
十門弁惑論纂述 四冊
○冊子本袋綴朝鮮装、「寛保二^丁戊歲孟春吉辰／臺屋宗右衛門板行」刊記
(表紙貼紙)「縁山／如意窟藏／南塔」、「水」墨書
八宗綱要 一冊
○冊子本袋綴明朝装、「文政丁亥(1827)」刊記
説法明眼論鈔 二冊
○冊子本袋綴明朝装、「寛文壬子(1672)四月穀旦／中野宗左衛門板」刊記
(表紙貼紙)「縁山／二念菴藏書／塔下」、「調」墨書
首書十八通 二冊
○冊子本袋綴明朝装、「文政十二己丑年／芝峯大衆藏」刊記
(表紙)「誠」(墨書)
教誡律儀講述 二冊
○冊子本袋綴明朝装、「林重義敬刻／正徳甲午四年仲秋穀旦謹識」刊記
- 76 77 78 79 80
- 81 (表紙貼紙)「縁山／二念菴藏書／塔下」、「芬」墨書
輔行序^並註勘文 二冊
○冊子本袋綴朝鮮装、「寛文五^乙孟春吉日／伊藤次郎兵衛刊行」刊記、朱書書入レ、墨書書入レ
(表紙貼紙)「縁山／二念菴藏書／塔下」、「玉」墨書
善惡因果經要解 二冊
○冊子本袋綴明朝装、「元禄三^庚年復月吉旦／中野小左衛門／林五郎兵衛／板行」刊記、朱書書入レ
(表紙貼紙)「縁山／如意窟藏／南塔」、「成」墨書
梵網註經 三冊
○冊子本袋綴朝鮮装、「貞享元^甲子年八月中浣一／井上治右衛門尉開板」刊記、朱点(仮名、返点)
(表紙貼紙)「縁山／如意窟藏／南塔」、「往」墨書
金剛經刊定記 五冊
○冊子本袋綴朝鮮装、「崇禎丁丑(1637)孟秋般若堂識」刊記
(表紙貼紙)「縁山／二念菴藏書／塔下」、「為」墨書
增訂敬信録 二冊
○冊子本袋綴明朝装、「道光癸未(1823)年鐫」刊記
※右ノ二冊ヲ一括セル帙アリ
- 82 83 84 85 86

- 87 諸宗宝鑑 一冊
○冊子本袋綴大和装、「貞享第四竜集／南紀住／白眼居士述」刊記
（表紙）「元禄古版」書入レ
- 93 融通念佛縁起繪 二帖
○折本装、大本、「天保辰（1832）年冬 大坂住人草問某謹白」
「彫工 山田和助」刊記
※右ノ二冊ヲ一括セル帙アリ
- 94 韃立正安國論 一冊
○冊子本袋綴明朝装、「天保四巳年補刻／華陽堂 華房兵藏／太雅堂 橘俊輔／上梓」刊記
- 97 觀世音靈驗図會 五冊
○冊子本袋綴明朝装、「万延二^{辛酉}孟春／臺邨謹書」刊記
- 110 祐天大僧正利益記 三冊
○冊子本袋綴明朝装、「文化五年戊辰臘八之日／明顯山蔵版」刊記
- 116 融通大念佛本縁起 二冊
○冊子本袋綴明朝装、「元禄十三辰仲春吉旦」刊記
- 117 六合釈節要 一冊
○冊子本袋綴明朝装、「享保開元仲秋望烏／山形屋孫右衛門
- 118 梓」刊記、朱書書入レ、墨書書入レ
（表紙貼紙）「縁山／如意窟蔵／南塔」、「水」墨書
六物図 一冊
○冊子本袋綴朝鮮装、「寛文四^{甲辰}年仲夏／丁子屋長兵衛開板」刊記
- 119 菩薩戒経義疏會本 二冊
（表紙貼紙）「縁山／如意窟蔵／南塔」、「収」墨書
○冊子本袋綴明朝装、「元禄三年庚午之秋再治」刊記、朱点
（仮名、返点）、朱書書入レ、墨書書入レ
- 120 頌義九十拔粹^{真言問答} 一冊
（表紙貼紙）「縁山／如意窟蔵／南塔」、「往」墨書
○冊子本袋綴明朝装、「寛永廿^{癸未}曆二月吉日」刊記、墨書書入レ
- 121 和字浄土大意鈔 一冊
（表紙貼紙）「縁山／二念菴蔵書／塔下」、「列」墨書
○冊子本袋綴明朝装、「天保七年丙申四月／関東本山蔵版」刊記
- 123 浄土論註拾遺抄 四冊
○冊子本袋綴朝鮮装、「承応二年^{巳癸}春三月仲旬穀旦」刊記、墨書書入レ

- 124 記主禪師傳 一冊
 (表紙貼紙)「縁山／如意庵藏／南塔」、「玄」墨書、但シ右傍ニ「黄」(朱筆)書入レアリ
- 125 勝宗十句義論 一冊
 (表紙貼紙)「縁山／二念菴藏書／塔下」、「往」墨書
 ○冊子本袋綴明朝装、「天保七申七月 正定院敬道謹識」刊記
- 126 大經奉讀並科註略論 一冊
 (表紙貼紙)「縁山／如意庵藏／南塔」、「麗」墨書
 ○冊子本袋綴朝鮮装、「延宝五_{丁巳}年九月吉日」刊記、墨書書入レ
- 130 科文称讃浄土佛摂受經 一冊
 ○冊子本袋綴明朝装、「享保十歳次乙巳夏／沙門梁道跋」刊記
- 131 智人選択要決 一冊
 (表紙貼紙)「縁山／二念菴藏書／塔下」、「黄」墨書
 ○冊子本袋綴明朝装、「享保五_{庚子}歳九月吉旦／今井重左衛門版行」刊記
- 132 菩薩戒誘蒙 一冊
 (表紙貼紙)「縁山／二念菴藏書／塔下」、「盈」墨書
 ○冊子本袋綴明朝装、「享保十八年冬十二月／沙門秋印敬跋」、「澤田吉左衛門求版」刊記
- 133 願生帰命辨 二冊
 ○冊子本袋綴明朝装、「宝暦十四年_{甲申}正月吉旦／額田正三郎壽梓」刊記
- 135 科往生拾因 一冊
 ○冊子本袋綴朝鮮装、「延宝六_{戊辰}暦正月吉日／本屋弥兵衛」刊記、墨書書入レ
- 136 護法論(題箋剝離) 一冊
 (表紙貼紙)「縁山／二念菴藏書／塔下」、「寒」墨書
 ○冊子本袋綴明朝装、「寛永甲申(1644)三月吉祥日／村上平楽寺／開板」刊記、朱点(仮名)、墨点(仮名)、朱書書入レ、墨書書入レ
- 139 浄土略名目図見聞(内題) 三冊
 1 浄土略名目図見聞
 ○冊子本袋綴明朝装、「宝永七_{庚子}年仲秋下絃／油屋與兵衛壽梓」刊記
 (表紙)「鏡」(墨書)

- 12 浄土略名目図見聞
 (裏表紙)「転法輪阿」(墨書)
- 1 〇体裁等1号ニ同ジ、「卯延宝三年仲秋吉日／法林寺東暉謹
 白」刊記
 (表紙)「寮」(墨書)
 (裏表紙)「順誉永之」(墨書)
- 3 浄土略名目図見聞
 〇体裁等1号ニ同ジ、但シ朱書書入レ、墨書書入レアリ、
 「延宝六年歳次戊午初秋吉日」刊記
 (表紙)「典」(墨書)
 (裏表紙)「登／転法輪阿」(墨書)
- 140 教戒律儀 三冊
 1 教戒律儀
 〇冊子本袋綴明朝装、「延宝七_{己未}三月吉日／中村五兵衛開
 板」刊記、朱点(仮名)、墨点(仮名)、朱書書入レ、墨
 書書入レ
 (表紙貼紙)「縁山／二念菴蔵書／塔下」、「芬」墨書
- 2 教戒律儀
 〇冊子本袋綴朝鮮装、「延宝元_{癸丑}年仲冬吉日／中村五兵
 衛梓行」刊記、朱点(仮名、声点)、墨書書入レ
- 146 科註因明入正理論 一冊
 〇冊子本袋綴明朝装、後補表紙、「文政元年戊寅九月刻成／
 額田正三郎／河南四郎兵衛」刊記
- 142 往生拾因 二冊
 〇冊子本袋綴明朝装、「寛永三_{丙戌}八月吉日／出雲寺和泉掾」
 刊記、朱書書入レ、墨書書入レ
 (表紙貼紙)「縁山／如意窟蔵／南塔」、「寅」墨書
 (表紙)「黄」(白書)
- 3 教戒律儀
 〇体裁等1号ニ同ジ、但シ朱書書入レアリ、「元禄三庚午曆
 初冬吉日」刊記
 (表紙貼紙)「縁山／二念菴蔵書／塔下」、「芬」墨書
- 145 (四座講式) 一冊
 〇冊子本袋綴明朝装、「貞享三丙寅年五月下旬 武州俊忍／
 前川茂右衛門」刊記、節博士、朱書書入レ
 (表紙)「先惣礼」(墨書)
 ※本書ハ明恵上人撰述ノ四座講式ノ内、遺跡講式・舎利講
 式ヲ収ム。表紙見返ニ八声ノ声点図アリ

- 147 教誠儀指要鈔 一冊
○冊子本袋綴明朝装、「元禄十六癸未仲春吉辰」刊記、朱点
(仮名)、朱書書入レ、墨書書入レ
(表紙貼紙)「縁山／如意窟藏／南塔」、「秋」墨書
百法問答抄玄談 一冊
- 148 ○冊子本袋綴朝鮮装、「貞享元年甲子五月中旬／村上勘兵衛藏版」刊記
(表紙貼紙)「縁山／如意窟藏／南塔」、「生」墨書
般若心経註解 一冊
- 150 ○冊子本袋綴大和綴、「洪武十季十一月廿有二日」「洪武十
一歳正月日」以上本奥書、「嘉永六癸丑歳仲秋之日於牛欄
堂宋史謹写」奥書
顯浄土傳戒論(題箋剝離) 一冊
- 151 ○冊子本袋綴明朝装、「慶安四卯稔孟春吉旦／開板」刊記、
朱書書入レ、墨書書入レ
選沢本願念仏集 一冊
- 152 ○冊子本袋綴明朝装、「元禄第七^甲戊仲冬上浣／大角清兵衛刊」刊記、朱書書入レ、墨書書入レ
澤庵和尚法語 一冊
- 153 ○冊子本袋綴大和綴、後補表紙、「安永甲午(1774)初秋」奥
刊記
- 154 大光普照集 三冊
○冊子本袋綴明朝装、「文政十年丁亥正月補刻／吉野屋仁兵衛板」刊記
儒門語要 三冊
- 155 ○冊子本袋綴明朝装、「慶応元乙丑年新刻／須原屋茂兵衛
他」刊記
三縁山志 九冊
- 158 ○冊子本袋綴明朝装、「文政元年戊寅季秋／箕山源吉從撰
并書」刊記
應化略註解(題箋剝離) 一冊
- 159 ○冊子本袋綴明朝装、「文化二年乙丑冬開彫／永楽屋東四郎梓」刊記
嘉祥大経義 一冊
- 161 ○冊子本袋綴朝鮮装、「元禄八^{乙亥}蜡月／河南四郎右衛門版」
刊記
(表紙見返)「精進堂藏書」
澤水かな法語 一冊
- 162 ○冊子本袋綴明朝装、「宝暦十三歳末十一月／三河屋藤藏」
刊記

- 163 塩山法語 一冊
○冊子本袋綴明朝装、「慶安二己丑曆仲春」刊記
顛愈問答 一冊
- 164 ○冊子本袋綴明朝装、「弘化戊申（1848）春三月三日旬豆終于成蹊園」奥書、朱点（仮名、返点）
識知浄土論并附録 二冊
○冊子本袋綴明朝装、「宝曆五年乙亥五月穀旦／村上勘兵衛再版」刊記、墨書書入レ
- 174 (表紙貼紙)「縁山／如意窟蔵／南塔」、「宿」墨書
五部九卷要文 二蔵二教略頌 合帙 一冊
○冊子本袋綴明朝装、「寛政元歳己酉二月一／澤田吉左衛門求版」刊記、墨書書入レ
- 177 (表紙貼紙)「縁山／二念菴蔵書／塔下」、「洪」墨書
(表紙)「文政九戌年正月吉祥日 宝聚庵」(朱書)
正邪不可會辨 一冊
- 178 ○冊子本袋綴明朝装、「文化丁丑（1817）夏第二ノ月」刊記
(表紙貼紙)「縁山／二念菴蔵書／塔下」、「閏」墨書
俱舍論頌疏正文 一冊
- 179 ○冊子本袋綴明朝装、「慶安四辛卯年八月吉辰／中村五兵衛尉刊行之」刊記、朱書書入レ、墨書書入レ
- 180 (表紙貼紙)「縁山／二念菴蔵書／塔下」、「菜」墨書
唯識本頌（題箋剝離） 一冊
○冊子本袋綴朝鮮装、「延宝甲寅（1674）三月十五日」刊記
(表紙)「洪」（墨書）
- 182 大般若經六百卷寄附連名記 一冊
○冊子本袋綴大和装、「嘉永七^甲年五月／古桂山 東光院世話人」刊記
論場旗鼓 二冊
- 185 ○冊子本袋綴明朝装、「天明六年丙午孟秋／錢屋莊兵衛発行」刊記、
※第2号ニハ朱点（仮名、返点）、墨書書入レアリ
兩部神道口決鈔 六冊
- 186 ○冊子本袋綴明朝装、「寛政七年卯正月補刻／林権兵衛他」刊記
施食盆供辨誤 一冊
- 188 ○冊子本袋綴明朝装、「文政」丁亥（1827）季夏 縁山僧某志／二念庵蔵版」刊記
頌義六拔萃 二冊
- 192 ○冊子本袋綴明朝装、「寛文九龍集／酉三月吉祥日／鈴木太兵衛／村上又三郎」刊記

- 193 (表紙貼紙)「縁山／二念菴藏書／塔下」、「列」墨書
(表紙)「十」(朱書)
無量山戒嘯 一冊
- 194 ○冊子本袋綴明朝装、「文政九丙戌之冬壽梓／無量山中華
王窟誌」刊記、墨書書入レ
當麻変相註記畧要義(内題) 一冊
- 195 ○冊子本袋綴朝鮮装、「元禄元年戊辰十月中旬／林五郎兵
衛板行」刊記
心具決定往生義 一冊
- 196 ○冊子本袋綴朝鮮装、「正保五年二月吉辰」刊記、朱書書入
レ、墨書書入レ
六合釈 一冊
- 197 ○冊子本袋綴明朝装、「元禄十三歳辰四月吉日／中野宗左
衛門壽梓」刊記、朱書書入レ、墨書書入レ
浄土大意鈔 一冊
- 198 ○冊子本袋綴明朝装、「安永七^戊歳孟春／澤田吉左衛門」刊
記
(裏表紙)「塩崎村／元□寺」(墨書)
批判附十八通 三冊
- 201 兵衛／小森喜兵衛／板行」刊記
(表紙貼紙)「縁山／如意窟藏／南塔」、「張」墨書
※但シ、第3号ハ貼紙ナシ、198-1、2号ノ合本ナリ
父子相迎要解 二冊
- 203 ○冊子本袋綴明朝装、「宝永第四歳旅丁亥仲冬月／皇都書
坊」刊記
(表紙貼紙)「縁山／如意窟藏／南塔」、「張」墨書
往生礼讃纂釈 五冊
- 204 ○冊子本袋綴明朝装、「宝永八年龍集辛卯孟春吉日／村
上平楽寺壽梓」刊記、朱書書入レ
(表紙貼紙)「縁山／如意窟藏／南塔」、「洪」墨書
四教儀(題箋剝離) 一冊
- 205 ○冊子本袋綴明朝装、「寛永三^丙九月吉日／於洛陽本國
寺之内開板」刊記、朱書書入レ、墨書書入レ
如来秘藏録 一冊
- 207 ○冊子本袋綴朝鮮装、「寛文八^戊歳仲夏吉旦／村上勘兵
衛刊行」刊記
(表紙貼紙)「縁山／二念菴藏書／塔下」、「暑」墨書
(表紙)「五十六」(朱書)
有宗七十五法記 三冊

- 219 〇冊子本袋綴朝鮮装、「享保十七稔季復月穀旦／田中莊兵衛／澤田吉左衛門／中野宗左衛門／同編」刊記、朱点（仮名、返点）、朱書書入レ、墨書書入レ
（表紙貼紙）「縁山／二念菴蔵書／塔下」、「重」墨書
（表紙）「往」（墨書）
臨終略要抄（新補貼紙）
一冊
空源上人七箇條管註 一冊
- 218 〇冊子本袋綴明朝装、「明暦元^{乙未}年仲秋上旬刊行之」刊記
（表紙）「来」（貼紙）、「潤」（白書）
一冊
- 216 〇冊子本袋綴明朝装、「享保三^{戊戌}年孟春吉日／浅野久兵衛重雄開版」刊記、朱書書入レ、墨書書入レ
（表紙貼紙）「縁山／二念菴蔵書／塔下」、「崑」墨書
教觀綱宗會本 二冊
- 213 〇冊子本袋綴朝鮮装、「寛文十一^{辛亥}年九月日／丁子屋源兵衛開板」刊記、墨書書入レ
（表紙）「智山／俊呆之」（墨書）
齊別受八戒作法 一冊
- 212 〇冊子本袋綴明朝装、「元禄元年極月一日／玉屋次郎兵衛開版」刊記
一冊
- 228 〇冊子本袋綴明朝装、「延宝八季庚申仲夏日／沙門松源」奥書、「村上勘兵衛刊行」刊記
※延宝ヲ遠ク下ラヌ刊行ナルベシ
無量壽経義疏 一冊
- 227 〇冊子本袋綴明朝装、「元禄十四^{辛巳}歳春末上旬／玉置次郎兵衛久信」刊記
（表紙貼紙）「縁山／如意窟蔵／南塔」、「天」墨書
諫母草 一冊
- 226 〇冊子本袋綴明朝装、「明和八龍集辛卯二／月苾蒬慧恭謹書」刊記
（表紙貼紙）「縁山／二念菴蔵書／塔下」、「秋」墨書
華三卷書 三冊
- 224 〇冊子本袋綴明朝装、「元文第三戊午仲春上浣」刊記
続妙好人傳 二冊
- 222 〇冊子本袋綴明朝装、「嘉永四^{辛亥}正月／五梅園蔵版」刊記
閑愁録 一冊
- 220 〇冊子本袋綴明朝装、「慶応三丁卯五月／土佐海援隊蔵板」刊記
關邪小言 四冊
- 218 〇冊子本袋綴明朝装、「安政四年丁巳春王正月／楠本覚敬

- 229 撰／川島達謹書「刊記」
刻關邪集 二冊
- 冊子本袋綴明朝装、「辛酉仲春」刊記
※文久元年ナルベシ
- 230 關邪管見録 二冊
- 冊子本袋綴明朝装、「万延紀元庚申秋八月／杞憂道人／澤德基」刊記
- 232 性靈集便蒙（題箋剝離） 十冊
- 冊子本袋綴朝鮮装、「延宝乙卯（1675）孟夏日／前川茂右衛門尉刊行」刊記、朱点（仮名）、朱書書入レ、墨書書入レ、「札幌／志田商店」朱印記
- 233 黒谷上人傳 十冊
- 冊子本袋綴朝鮮装、「寛永甲申（1644）孟春吉日／書舎五郎左衛門梓行」刊記、朱書書入レ
- 234 光讚般若波羅蜜經 三冊
- 冊子本袋綴朝鮮装、「寛文壬子（1672）仲夏 黄檗山宝蔵院識」刊記
- 236 淮水遺訣 二冊
- 冊子本袋綴朝鮮装、「慶応戊辰（1868）年孟夏／喰露閣蔵板」刊記、「朗亭蔵」朱印記
- 237 碧巖集種電鈔 十二冊
- 冊子本袋綴朝鮮装、「天明四年辰二月 延秀識」刊記
※明治期ノ後補表紙ナルベシ
- 238 詠輔教編 十冊
- 冊子本袋綴朝鮮装、「元禄第九丙子年仲夏日／植村藤右衛門／田原仁左右衛門／壽梓」刊記
※後綴ノ刊記アリ「維時文久改元辛酉」（後世ノ別摺リナルベシ）
- 240 （後補表紙）「出雲寺松栢堂」刊記
道神足無極変化経巻第四（宋版一切経） 一帖
○折本装、後補表紙、界線アリ、総裏修補跡アリ、「靖康元（1126）年二月 日 謹題」刊記、全十紙
（巻末）「元印造」（墨印記）

三

二において記載した資料の中で、重要と思われる三点について以下に詳述していくこととする。



① 64-2 大般若経断簡 一紙

○江戸時代延宝五年刊、「北駕／文庫」朱印記、無点、縦二十五糎、幅三十糎、四周双辺、界高二十一・六糎、界幅十四・六糎

〔刊記〕

筑之後州縣禪尼高心院施白銀三両為薦

高源院 大雲院 小田部新助捐小金一片 同

母長慶院 同祖母清雲院 大橋十郎兵衛 同

女末都 由布孫左衛門各捐四錢三分

小田部金之名捐五錢其助刻此

大般若経第四百四十九卷 沙門鉄眼募衆縁刻

延宝丁巳夏五月上浣日黄檗山宝蔵院識

〔柱〕「経」「大般若経卷第四百四十九 二十終」「玉九」

本資料は、右の刊記からも知られるように、いわゆる黄檗版の大蔵経の断簡である。黄檗版大蔵経は、別名「鉄眼版」とも呼ばれているように、黄檗宗隠元の高弟鉄眼が隠元から与えられた「楞嚴寺版（万曆版）」を基にして、黄檗宗の本山万福寺で覆刻したものである。

このような黄檗版の大蔵経の中で、本資料は「大般若波羅蜜

多経巻第四百四十九」の「第二分甚深義品第五十五之一」の末尾に該当する一紙である。右端から四行目の左側に折り目が見られることから、原装は折本装であったものが剝がれたとも考えられるが、反対の左側には折り目が見られないので未装のものであった可能性が高い。

北駕文庫の朱印記はあるのに、分類ラベルは貼付されておらず、また大正目録にも登録されていないのは不審である。考えられるのは、本資料は、分類番号「宗(3)64」に該当する「黄檗山諸堂聯額」という江戸時代後期刊と考えられる冊子本の間に挿入されていたので、分類登録の際に「黄檗山諸堂聯額」の一種と誤認されて登録から漏れたという可能性がある。

しかしながら、「黄檗山諸堂聯額」と本資料は同じ黄檗宗関連資料であるというだけで、本来は全く別種のものであるので、私に分類の子番号を付して紹介した次第である。

② 145 (四座講式)

一冊

○江戸時代貞享三年刊、冊子本袋綴明朝装、節博士、朱書
書入レ

(表紙)「先惣礼」(墨書)

(刊記)

右此四座講式雖于世流布未文字

博士清濁有誤之故再校合スル者也

貞享三丙寅年五月下旬 武州俊忍

前川茂右衛門

本書は、題箋が剝離しており正式な書名は不明であった。表紙に墨書で「先惣礼」と記されているので、大正目録にもそれが書名として記載されている。しかしながら、内題に「遺跡講式」、中程と末尾に「舍利講式」とあり、刊記などからみても、本書は貞享三年俊忍校訂版本「四座講式」二冊の内の下冊であることは明らかである。

「四座講式」は、梅尾高山寺の開祖、明恵上人(高弁)撰述に係る、涅槃講式、十六羅漢講式、如来遺跡講式、舍利講式の四巻からなるものである。内容は、釈迦の入滅の相を述べることから始まり、羅漢の功績を称讃し、さらに釈迦の遺跡と舎利の功德を賛嘆するもので明恵上人の撰述書として著名なものである。現在でも真言寺院などでは、毎年二月十五日の常楽会には節をつけて詠まれることが多い。明恵上人自筆の「四座講式」は現存しており、国宝に指定されている。また、高山寺には、本資料と同一の刊記を持つ貞享三年刊の「四座講式」一冊(高山寺聖教類第四部第一一三函73号)と、江戸時代末期書写の一



145 （四座講式） 卷首

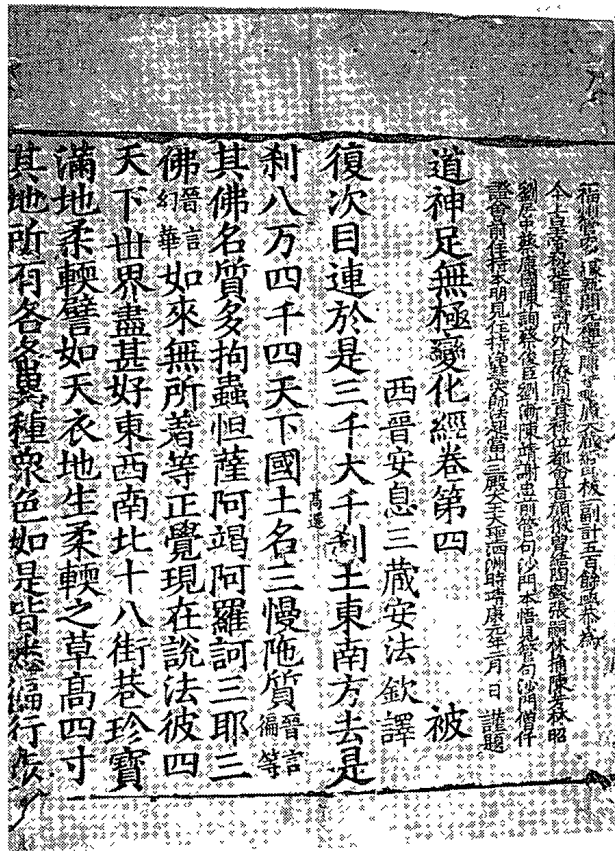


145 （四座講式） 卷末

冊(同、第四部第一六七函6号)が残されている。

金田一春彦博士は、墨譜(節博士)の付された「四座講式」の諸写本を博搜され、鎌倉時代の京都地方のアクセント体系を明らかにした「四座講式の研究」を出版されたことは良く知られている。

本書にも、表紙見返に墨書で八声の声点図があり、本文には

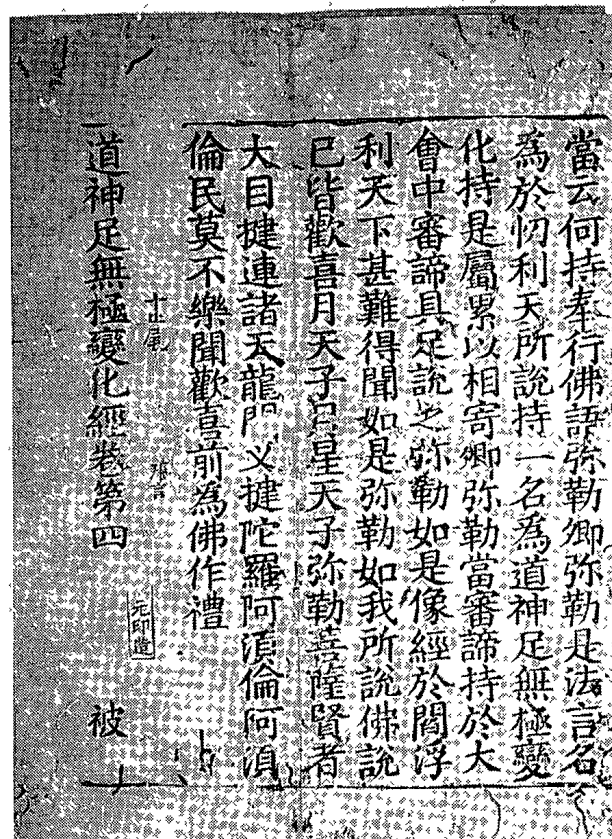


240 (宋版一切経) 巻首

③ 240 道神足無極變化經卷第四 (宋版一切経) 一帖

○靖康元(1126)年刊、折本装、後補表紙、総裏修補跡アリ、全十紙、一紙高二十八・四糎、幅六十五・六糎、界線ア

詳細な節博士が付されている。これがどのような経路で本学にもたらされたか、また節博士がいかなる系統のものかについては、未だに明らかにしないが、詳細な書き入れなどから、本書が実際に真言宗の寺院において相当利用されていたことを物語るものであるといえる。



240 (宋版一切経) 巻末

リ、界高約二十二・四糎、墨印記アリ「元印造」(巻末)

(刻工名) 第一紙ヨリ、高選、鄭才、林卿、林達、禁、丁宥、

鄭習、蔡有、陳徳、張言

（刊記）

福州管内衆緣就開元禪寺雕造毗盧大藏經印板一副計五百餘函恭爲／今上皇帝祝延聖壽内外臣僚同資祿位都曾百顏徽曾結陶穀張嗣林桺芳林昭／劉居中蔡康國陳詢蔡俊臣劉漸陳靖謝忠前管句沙門本悟見管句沙門僧仟／證曾前任持本明見住持淨慧大師法超當山三殿大王大聖泗洲時靖康元年二月 日 謹題

本資料は、本学付属図書館北駕文庫に蔵されている、宋版一切経で「道神足無極變化経卷第四」にあたる一帖である。宋版一切経は、周知の如く東禪寺版、開元寺版、思溪（湖州）版など異なった版の数種が刊行されているが、本資料は刊記からも明らかなように開元寺版の一切経の一つである。その刊記は、同じ開元寺版の「宝雨経第一」に記されたもの（『仏書解説大辞典』による）と同一であつて、靖康元年（1126）の刊行である。

日本に現存する一切経は比較的多く、京都の高山寺には多数

の宋版（思溪版）が残されている。本資料と同じ開元寺版の一切経は、上述の「仏書解説大辞典」によれば、宮内庁図書館、醍醐寺、高野山、東寺、知恩院などに存しているようである。本資料がいかなる経路をたどつて北駕文庫に収蔵されたかについては明らかでない。また、他の所蔵者を示す印記等も見当たらないため、なぜこの一帖のみが本学にもたらされたかという伝来の状況は不明である。

保存の状況は、多少の虫損はみられるものの比較的良好である。裏面のすべてを紙で貼り直す裏打ちが施されているが、それも所々に虫損がみられるので、修補は江戸時代以前に行われたものと考えられる。後補の表紙についても、裏側は合わせ目が剝がれかけているが前面は良く保存されている。訓点や書き入れなどは一切見られない。

本資料は、恐らく本学の蔵書の中でもっとも古いもののひとつで、重宝の第一に数えられるべき逸品として貴重なものであると考えられる。

（未完）

AN INTRODUCTORY REVIEW ON THE WORKS LISTED IN THE “HOKUGA COLLECTION”(1)

TOKUNAGA Yoshitsugu

The purpose of this paper is to introduce and review the works listed in the “HOKUGA COLLECTION” as “Dai-san shūkyōsyō-no-bu”.

A preliminary list of books in the “HOKUGA COLLECTION” has previously been published. However, this paper corrects the chronology and is more complete. Therefore, it is hoped that it will be of value to those seeking a more accurate catalog of books.

An annotated a list of books transcribed and published before the Edo period. Three books of particular importance have accompanying photographs.